

バレニクリンを用いて喫煙患者に禁煙サポートをした経験

○渡辺悦子 吉井あい子 渡辺孝夫

医療法人 恵生会 厚生歯科

キーワード

禁煙治療薬, バレニクリン酒石酸塩錠, ニコチン依存症, クリニカルパス

【目的】 口腔は、喫煙によって、煙中の有害物質を直接的に粘膜から吸収し、一方、肺から血管を経て間接的害を受るという二重の影響を受けている器官である。この為害作用として、口腔インプラント・外科手術の創傷治癒の遅延や歯周病の悪化などを招いていることは臨床でよく経験し、また、肉眼でも実感している。しかし、現実には歯科では確立した禁煙方法がなく、口頭や情報媒体による消極的な方法がとられているにすぎない。

今回、バレニクリン〔商品名[®]チャンピックス=ファイザー製薬〕をインプラントや歯周病で来院した喫煙患者に応用し、支援した経験を報告する。

【対象及び方法】 年齢40歳から65歳、男性6名、女性1名、合計7名の喫煙者。治療期間3か月。使用禁煙治療薬剤：バレニクリン酒石酸塩錠（0.5ミリグラム、1.0ミリグラム）。薬剤の服用方法としては、準備期間7日間は0.5ミリグラム1錠/日を3日間、0.5ミリグラム2錠/日4日間、禁煙宣言日から1.0ミリグラムを日に二回服用した。禁煙の動機：インプラント治療の成功の為2人、健康維持の為3人、家族の為2人であった。

喫煙の程度はニコチン依存度テスト、ブリンクマン指数（1日の喫煙本数×喫煙年数）により判定し、喫煙の確認は来院時の一酸化炭素の測定値と禁煙日誌や問診で行った。治療の成功は1か月間の継続した禁煙とした。

クリニカルパスに従い歯科医師の指示のもとで禁煙指導、及び支援を行った。

【結果及び考察】 禁煙開始後副作用として嘔気を訴え服用を中断した者3人、嘔気がなかった者は継続したが途中は緩慢な服用であった。バレニクリンがニコチン受容体に結合することで少量のドーパミンが分泌されたため離脱作用軽減がされる。この作用により以前よりたばこがほしくないと感じる人や自助努力より楽に禁煙が出来きた、気分が良くなると感じる人もいた。また、服用期間中の喫煙では、たばこを吸ってもおいしいと感じない傾向にあった。開始前のニコチン依存度テストやブリンクマン指数の程度と禁煙の成功は必ずしも一致するとは限らなかった。依存症は身体的要素と習慣的要素があり、禁煙薬剤は身体に作用するが、習慣的な部分の改善に私たち医療スタッフのサポートが支えになると考えられた。ここに歯科医院全体で行う禁煙治療の意味がある。

歯科のもつ独自の検診やメンテナンスシステムは長期的に禁煙の継続をサポートできる条件を備えていると考えられる。

【結果】 歯科において、インプラント治療、歯周病治療で来院した喫煙患者に禁煙薬剤を用いた結果7人中6人が禁煙に成功した。